

行雲流水

No. 3 4 1 令和5年10月12日発行

勝つことよりも大切なことがある

校長 寒河江 正人

生徒諸君、
もうすでにご存じのとおり、**藤井聡太さんが「8冠達成」の偉業**を成し遂げた。

これまでの「**竜王・名人・王位・叡王・棋王・王将・棋聖**」の7冠に「**王座**」が加わり、
全冠制覇の「8冠」達成である。

2016年。**史上最年少、14歳2カ月**の中学生で7口入り。

2017年。**デビューから無敗で最多の29連勝**を記録した。

わずか7年で将棋の頂点に駆け上がった。

機会があつて、夏休み明けに**藤井聡太さんの対談**を綴った
「**考えて、考えて、考える**」(講談社)という一冊を本校の図書室から借りて読んだ。

読んで学んだことは、「**より強くなるための学び方**」「**心の整え方**」、
そして、「**探究を続けることの楽しさ**」、
「**とことんやってみることで見えてくる風景がある**」ということだ。

中でも、特に印象的だったのは、
「**自分には、「勝つこと」よりも大切なことがあります。**」
「**「勝つこと」が、一番じゃないんです。**」
「**それは、勝敗に関係なく、「最善を追究するということ」が、一番大切なのです。**」という
言葉である。

読めば読むほど、伝わってきたのは、
藤井聡太さんの「**困難を乗り越えようとする力**」「**他者への尊敬の念**」「**飽くなき探究心**」、
そして、「**真理を追究したいという純粋な心**」である。

藤井聡太さんは、「**自分が今までに出会ったことのないような新しい局面、新しい景色に
遭えば遭うほど、違うものが見えてくる感覚があり、考えて考えて、乗り越えることこそが、
最大のモチベーションになります。**」と語っていたのである。